

科学コミュニケーションを支える市民リテラシーと批判的思考： 食品と放射能のリスク認知の事例から

2011年6月30日（木） 18:00-20:00

食品や放射能に関するリスク認知や情報信頼性評価に、市民の持つリテラシーと批判的思考がどのように影響しているかを、これまでとってきた社会調査データに基づいて紹介します。具体的には以下の話をする予定です。1. 市民リテラシーとしての科学リテラシー、メディアリテラシー、リスクリテラシー 2. 市民リテラシーを支える批判的思考 3. リスク認知と情報信頼性評価に批判的思考とリテラシーの影響：BSE・鳥インフルエンザ、医療、福島第一原発事故の事例 4. まとめ：よりよい市民リテラシーと科学コミュニケーションのために（ゲストより）

ゲスト 楠見 孝（京都大学大学院教育学研究科 教育認知心理学講座 教授）

筑波大学社会工学系、東京工業大学社会理工学研究科を経て現所属。認知心理学の立場から、比喩・類推の理解、リスク認知、批判的思考について研究を進めてきました。最近は科学コミュニケーションと博物館展示について関心を持っています。

会場 京都大学 吉田泉殿

*京町家風の建物です。

*普通の家のように見えるので、通り過ぎないようにご注意ください。

*入り口に「京都大学吉田泉殿」という看板がかかっています。

定員 25名程度

*当日参加も可能です！

*お申し込みをいただいた方には、リマインダーをお送ります。

持ち物 （おなががすく時間なので）

夕ご飯をご持参ください。

主催 科学コミュニケーション研究会 関西支部有志 加納 圭・水町 衣里（京都大学）



お申し込みはコチラから → <http://bit.ly/mNcYFM>